熊本保健科学大学大学院　保健科学研究科
リハビリテーション領域

失語症学、摂食嚥下障害学

准教授　宮本　恵美
Megumi Miyamoto

現在の研究テーマと内容

現在、次のようなテーマを研究しています。

1. **失語症者の構文ネットワーク構造の解明とその評価法及び訓練法の開発**
2. **嚥下障害者への間接訓練法の検討**

これまでの研究成果と今後の展開

軽度失語症者の構文ネットワーク構造については、格助詞「デ」、「ニ」、「ヲ」、「ガ」の観点から調査し、その特徴を明らかにしました（「失語症者の格助詞の誤りに関する考察～格助詞「ニ」を中心に～」保健科学研究誌　第12号 91-100 2015、「失語症者の多義ネットワーク構造について～格助詞「ヲ」を中心に～」日本認知言語学会論文集.日本認知言語学会, 15, p 57-67 2015、「失語症者における構文多義ネットワーク構造の検討～格助詞「デ」を中心に　～」コミュニケーション障害学vol.33 NO3, p148−154 2017）。また、その結果から考えられる評価法と訓練法の提案をいたしました（「失語症に対する構文の評価法および訓練法の提案～認知言語学視点から格助詞を中心に～」保健科学研究誌 第13号 135-145 2017）。以上の研究は、本学の大塚准教授と熊本県立大学の先生とともに行っております。今後は訓練法の効果の検証を実施していく予定です。

昨年度、本学の古閑教授とともに担当した本学大学院の修了生が「構音動作を用いた喉頭挙上訓練の検討」のテーマで健常若年者に対し、既存の訓練と「カ」の連続構音の訓練を実施し、その訓練効果について調査をいたしました。結果、既存の喉頭挙上を目的とした訓練と同程度、もしくは、それ以上の効果が示されました。本研究は、昨年度、本学の優秀論文賞を受賞いたしました。今年度、学会発表および論文投稿を行っていく予定です。今後は、対象の年齢層を変更する、実施法の検討など、更なる検討を行う予定にしております。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

私の専門は「失語症学」と「摂食嚥下障害学」です。昨年指導させていただいた方は、本学の優秀論文賞をいただくことが出来ました。

日常の中で、「なぜ？このような症状がでるの？」、あるいは、「このような方法では、効果はないのだろうか？」など、たくさんの疑問を持つことがあるかと思います。その疑問のすべてが、研究の“種”です。その“種”から素敵な花が咲くようにお手伝いします。ともに楽しく研究しませんか？